

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

| | | | | | | | |
|---|---|---|--------------------|--------------|-------------------------------------|---------|-----------|
| 事業番号・事業名 | 93 | 海外研修受入による農業農村活性化事業 | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-4-(1)-ア | | | |
| 担当部課名 | 農林水産部営農支援課 | 事業実施(予定)年度 | 平成 25 ~ 29 年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-1-(6)、Ⅲ-7 | | |
| 事業内容 | 過疎地域や離島などの農業農村地域の活性化を図るため、亜熱帯・島しょ地域に適合した沖縄独自の技術やノウハウ等を有する農業分野において、アジア・太平洋地域の途上国等からの研修生を受け入れ、人材育成を行う。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | <input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他() | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位:千円】 | | 27年度 | 27年度(繰越) | 28年度 | 28年度(繰越) | 29年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 166,847 | 0 | 156,450 | 0 | 41,755 |
| | | (b) 予算現額 | 166,847 | 0 | 156,450 | 0 | 41,755 |
| | | (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 前年度繰越額 | - | - | - | - | - |
| | A. 計(b+d) | | 166,847 | 0 | 156,450 | 0 | 41,755 |
| | B. 執行済額 | | 149,802 | 0 | 129,498 | 0 | 35,813 |
| | うち交付金充当額 | | 119,842 | 0 | 103,598 | 0 | 28,651 |
| | C. 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率(%) (B/A) | | 89.8% | #DIV/0! | 82.8% | #DIV/0! | 85.8% |
| 予算の状況の説明 | | ・平成29年度予算額が減少しているのは、2期生のみ研修費用(5ヶ月)のみを計上したことによるものである。 ・執行率は85.8%であり、主に委託料の執行残が発生したことによるものである。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | H29活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | |
| | ・2期生の技能実習の実施 | 目標 | 8ヶ月 | 12ヶ月 | 12ヶ月 | 5ヶ月 | |
| | | 実績 | 8ヶ月 | 12ヶ月 | 12ヶ月 | 5ヶ月 | |
| | ・技能実習状況の現地確認 | 目標 | 6回 | 6回 | 6回 | 5回 | |
| | | 実績 | 6回 | 4回 | 6回 | 5回 | |
| | ・研修会及び修了式の開催支援 | 目標 | 2回 | 1回 | 1回 | 1回 | |
| | | 実績 | 2回 | 1回 | 1回 | 1回 | |
| | ・研修評価及び経営検証 | 目標 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | |
| | | 実績 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | |
| 達成状況説明 | ・技能実習については、海外からの研修生(2期生)について、24戸の農家が受け入れて実施した。 ・技能実習状況の現地確認は、研修期間(5ヶ月間)毎月実施し、円滑な研修が実施できるように行った。 ・研修会及び修了式を行うことで、研修状況の確認など、事業が円滑に実施できるように開催した。 ・研修評価及び経営検証として、24戸の受入農家のうち、5戸の農家の経営等の検証を行った。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | H29成果目標(指標) | | 基準値(25年度) | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 目標値(30年度) |
| | ①農家研修の実施 | 目標 | 35名/年 | 68名(継続) | 67名(継続) | 36名(継続) | - |
| | | 実績 | 26名/年 | 67名(継続) | 62名(継続) | 36名(継続) | - |
| | ②研修受入農家の育成 | 目標 | - | - | 37戸(継続) | 24戸(継続) | - |
| | | 実績 | 17戸/年 | 37戸(継続) | 35戸(継続) | 24戸(継続) | - |
| | ③受入農家経営収支把握調査の検証報告書作成 | 目標 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | - |
| | | 実績 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | 5戸 | - |
| 【H30成果目標】 海外研修生受入により地域の活性化が図られたとする実施市町村の割合 | 目標 | | | | | 80% | |
| 進捗状況説明 | ①平成29年度は2期生36名の継続支援を行い、研修会や修了式等において、研修生による研修状況報告等を行った。 ②研修受入農家については、引き続き、24戸の受入農家が2期生の研修を受け入れたことで、育成が図られた。 ③受入農家の経営収支把握調査を行った。 | | | | | | |

| 取組の検証 | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|---|---|---|
| | <p>・海外からの農業研修生の受入については、関係機関との更なる連携のほか、受入農家のノウハウや負担軽減を図る必要がある。</p> | <p>・継続的に、海外からの農業研修生の受入ができるように、受入農家への研修や農家の負担を軽減する支援施策を実施する。</p> |
| 今後の取り組み方針 | | |
| <p>・海外からの農業研修生の受入体制の構築等を図るため、受入れの初年度において、渡航費や日本語研修等に係る費用が発生し、費用負担の比重が高いことから、費用の一部を助成する新たな事業を実施する。</p> | | |

| 資金の流れ (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円) | | | | | | |
|--|---------|----------|--------|----------|-----|---------|
| 総事業費 | 交付対象事業費 | うち交付金充当額 | うち県負担金 | うち市町村負担金 | その他 | 交付対象外経費 |
| 35,813 | 35,813 | 28,651 | 7,162 | 0 | 0 | 0 |

沖縄県交付対象事業費
35,813千円

→

委託料
35,660千円

→

公益財団法人 オイスカ
35,660千円

旅費
153千円

海外研修受入による農業農村活性化事業に係る業務委託

| 資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------------------------------|----|--------------------------------|--|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は、海外研修受入活動に精通した監理団体と随意契約したため、妥当であったと考える。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | ○海外からの研修生受入には、監理団体が入国管理法や技能実習制度等の法制度に則り、適正な技能実習生、受入農家を選抜し実施している。 |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○委託料の費目、使途については、事業達成の観点から、目的に即しているかどうか書類検査を行い、適正と判断し執行している。 |

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

| 事業番号・事業名 | 220 | おきなわ国際協力人材育成事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-4-(1)-イ | | |
|--------------------|--|-----------------|-----------------|--------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 担当部課名 | 文化観光スポーツ部交流推進課 | 事業実施(予定)年度 | 平成 25 ~ 33 年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 世界と共生する社会の形成 | | |
| 事業内容 | 本県の国際協力を担う人材を育成するため、県内高校生を開発途上国に派遣し、ODA現場の視察や現地の人々との交流等を体験させる。また、国際協力について理解を深めるため、県内の中学校・高校において国際協流出前講座を実施する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 □後年度（ 年度） | | | | | | |
| 実施方法 | □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ） | | | | | | |
| 予算額・執行額 【単位：千円】 | | 27年度 | 27年度(繰越) | 28年度 | 28年度(繰越) | 29年度 | |
| | 予算の状況 | (a)当初予算額 | 46,283 | — | 46,283 | — | 46,189 |
| | (b)予算現額 | 46,283 | — | 46,283 | — | 46,189 | |
| | (c)増減額(b-a) | 0 | — | 0 | — | 0 | |
| | (d)前年度繰越額 | — | — | — | — | — | |
| | A.計(b+d) | 46,283 | — | 46,283 | — | 46,189 | |
| | B.執行済額 | 45,363 | — | 45,762 | — | 43,854 | |
| | うち交付金充当額 | 36,290 | — | 36,609 | — | 35,083 | |
| | C.次年度繰越額 | 0 | — | 0 | — | 0 | |
| | 執行率(%) (B/A) | 98.0% | — | 98.9% | — | 94.9% | |
| 予算の状況の説明 | ・執行率は94.9%であり、主に委託料の執行残が発生したことによるものである。 | | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | H29活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | |
| | 途上国に派遣する高校生数 | 目標 | 39名 | 39名 | 39名 | 39名 | |
| | | 実績 | 39名 | 39名 | 39名 | 39名 | |
| | 国際協流出前講座実施校数 | 目標 | 20校 (1,000名) | 20校 (1,000名) | 20校 (1,000名) | 20校 (1,000名) | |
| 実績 | | 25校 (3,081名) | 23校 (2,744名) | 22校 (2,098名) | 25校 (4,353名) | | |
| 達成状況説明 | ・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」及び県内高校での国際協力に関する出前講座を実施する「国際協理解促進事業」を、平成29年度おきなわ国際協力人材育成事業共同企業体へ業務委託する形で実施した。 ・「国際協力レポーター事業」では、アジア・太平洋地域の開発途上国3ヶ国(カンボジア、モンゴル、ラオス)へ各国13名、計39名の高校生を派遣した。 ・「国際協理解促進事業」では、離島を含む県内中学校・高校25校で、青年海外協力隊経験者などによる出前講座を実施し、4,353名の生徒が受講した。 | | | | | | |
| 成果目標(指標)及び進捗状況 | H29成果目標(指標) | | 基準値 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 目標値(30年度) |
| | 海外派遣により将来国際協力活動に携わりたいと思うようになった生徒の割合 | 目標 | — | 100% | 100% | 100% | |
| | | 実績 | — | 92% | 90% | 97% | |
| | 出前講座の実施により国際協力の必要性が理解できた生徒の割合 | 目標 | — | 100% | 100% | 100% | |
| | | 実績 | — | 95% | 97% | 95% | |
| | 【H30成果目標】 派遣者について、保護者へのアンケートにより、帰国後、国際的な視野が広がったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 | 目標 | — | — | — | — | 80% |
| | 【H30成果目標】 国際協流出前講座の受講者に対し、国際協力の必要性について理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 | 目標 | — | — | — | — | 80% |
| 進捗状況説明 | ・参加者へのアンケート調査の結果、成果目標は両事業全てにおいて90%以上と高い数値になっており、順調に進んでいる。 ・一方、成果目標を100%と最高位に設定しているため、目標達成に至らなかった。目標達成に向けては、受講対象者に合わせた講座内容等の調整や、幅広い国際協力のあり方の提示といった、よりきめ細かい取り組みが求められている。 | | | | | | |

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|---|--|
| 取組の検証 | <p>①成果目標達成に向けては、受講対象者に合わせた講座内容の調整や、幅広い国際協力のあり方の提示といった、よりきめ細かい取り組みが求められている。</p> <p>②海外派遣に関し、近年の国際情勢の動向・変化や感染症の状況など、安全な派遣国・視察先の選定、視察先との調整は海外の事情に通じた適切な実務能力と臨機応変な対応が求められる。</p> <p>③出前講座については、国際協力レポーター派遣参加生徒がいる高校以外からの開催依頼が少ない状況である。</p> | <p>①海外派遣においては、引き続き、事前学習・事後学習の中で、開発途上国の現状と県内の現状をリンクして考えられるよう、国際協力を身近に捉えることが出来るようプログラムを組むこととする。また、出前講座においては、受講者の関心度や規模等に合わせて内容を工夫する。</p> <p>②海外派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報の把握に努めるとともに、臨機応変な対応を行っていく。</p> <p>③出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化するとともに、従来応募がなかった学校へのアプローチを行っていく。</p> |

今後の取り組み方針

| |
|--|
| <p>①海外派遣においては、引き続き、事前学習・事後学習の中で、開発途上国の現状と県内の現状をリンクして考えられるよう、国際協力を身近に捉えることが出来るようプログラムを組むよう努める。また、出前講座においては、受講者の関心度や規模等に合わせて内容を工夫するよう努める。</p> <p>②海外派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報の把握に努めるとともに、臨機応変に対応する。</p> <p>③出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化するとともに、従来応募がなかった学校へのアプローチを積極的に図る。</p> |
|--|

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

| | 総事業費 | 交付対象事業費 | うち交付金充当額 | うち県負担金 | うち市町村負担金 | その他 | 交付対象外経費 |
|--|--------|---------|----------|--------|----------|-----|---------|
| | 43,854 | 43,854 | 35,083 | 8,771 | 0 | 0 | 0 |

沖縄県
交付対象
事業費
43,854千円

委託料
43,138千円

平成29年度おきなわ
国際協力人材育成事業
企業共同体
43,138千円

平成29年度沖縄国際協力人材育成事業
業務委託
(公社)青年海外協力協会
(株)JTB沖縄

事務費
716千円

(旅費、使用料、需用費)

| | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--|----|--------------------------------|---|
| 資金の 使途の 流れ、 費目 の 点検 評価 | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託業者は、公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか、完了検査、額の確定時において、支出等による証憑類を確認し、適正であった。 |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |

平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

| | | | | | | | |
|----------------|---|---|---------------|--------------------|-----------------------------|-----------|---------|
| 事業番号・事業名 | 221 | 世界のウチナーネットワーク強化推進事業 | | 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 | 第3章-4-(1)-ア | | |
| 担当部課名 | 文化観光スポーツ部交流推進課 | 事業実施(予定)年度 | 平成 29 ~ 33 年度 | 沖縄振興基本方針該当箇所 | 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-7 | | |
| 事業内容 | 「世界のウチナーンチュの日」が制定されたことを踏まえ、祭典を開催するとともに、同記念日の定着化に向けた取組みを推進するとことで、ウチナーネットワークの継承・発展・強化を図る。具体的にはWEBサイト及び各種メディアを活用した周知広報活動等を展開し、併せて、世界を舞台に活躍するウチナーンチュを招聘したトークイベントや、移民の歴史を題材とした演劇公演及び移民の歴史等に関する出前講座を実施する。 | | | | | | |
| 効果発現年度 | ■当年度 □後年度（ 年度） | | | | | | |
| 実施方法 | □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ） | | | | | | |
| 予算額・執行額【単位:千円】 | | 27年度 | 27年度(繰越) | 28年度 | 28年度(繰越) | 29年度 | |
| | 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100,422 |
| | | (b) 予算現額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100,422 |
| | | (c) 増減額 (b-a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (d) 前年度繰越額 | - | - | - | - | - |
| | | A. 計 (b+d) | 0 | 0 | 0 | 0 | 100,422 |
| | B. 執行済額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 97,129 |
| | うち交付金充当額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 77,703 |
| | C. 次年度繰越額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 執行率 (%) (B/A) | | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! | 96.7% |
| 予算の状況の説明 | | ・「世界のウチナーンチュの日」が制定されたことを踏まえ、祭典を開催するとともに、同記念日の定着化に向けた取組みを推進するため、平成29年度から新規事業として、世界のウチナーネットワークの強化に要する委託料等を計上した。 ・執行率は96.7%であり、概ね計画的に執行できた。 | | | | | |
| 活動目標(指標)及び達成状況 | H29活動目標(指標) | | 達成状況 | | | | |
| | | | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | |
| | 世界のウチナーネットワークの強化を推進する新たな取り組みの実施 | 目標 | - | - | - | 実施 | |
| 実績 | | - | - | - | 実施 | | |
| 達成状況説明 | ・市町村や海外県人会に対し、ウチナーネットワークの重要性とその発展・強化の必要性について説明を行い、「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取り組みの実施の呼びかけを行ったところ、13の県人会、10市町村が独自の取り組み実施に繋がった。 | | | | | | |
| H29成果目標(指標) | | 基準値(一年度) | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 目標値(30年度) | |
| | 海外及び県内における世界のウチナーネットワークの強化を推進する取り組み数 | 目標 | - | - | 海外5、県内10 | | |
| | | 実績 | - | - | 海外13、県内10 | | |
| | 【H30成果目標】(シンポジウム) 来場者に対し、世界各地に存在するウチナーンチュへの興味・関心が高まったかを含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 | 目標 | | | | 80% | |
| | 【H30成果目標】(世界のウチナーンチュの日広報展開) 「世界のウチナーンチュの日」の県民認知度 | 目標 | | | | 45%以上 | |

| | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|--|--|--|--|---------------------------------|
| 成果目標 (指標) 及び進捗状況 | 【H30成果目標】(世界のウチナーネットワークWEB構築) 県人会等との新たな取組数(県以外の主体による取組) | 目 標 | | | | | 海外5 (累計18) 県内10 (累計20) |
| | 【H30成果目標】(世界のウチナーネットワークWEB構築) WEBサイトアクセス数 | 目 標 | | | | | 19,000件 以上/年 |
| | 【H30成果目標】(沖縄文化芸能派遣事業) 合同演舞観覧者数 | 目 標 | | | | | 560名 |
| | 【H30成果目標】(沖縄文化芸能派遣事業) 合同演舞等参加者数(現地県人会等) | 目 標 | | | | | 100名 |
| | 【H30成果目標】(レッツスタディ! ワールドウチナーンチュ) 受講者に対し、沖縄の移民の歴史、世界各地の県系人について理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 | 目 標 | | | | | 80% |
| | 【H30成果目標】(移民の歴史普及啓発事業) 鑑賞者に対し、沖縄の移民の歴史に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 | 目 標 | | | | | 80% |
| | 【H30成果目標】(移民の歴史を巡るツアー) 参加者に対し、沖縄の移民の歴史に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。 | 目 標 | | | | | 80% |
| 進捗状況説明 | ・市町村や海外県人会に対し、ウチナーネットワークの重要性とその発展・強化の必要性について説明を行い、「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取組みの実施の呼びかけを行ったところ、13の県人会、10市町村が独自の取組み実施に繋がった。 | | | | | | |

H29-No.221

| | 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) | 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) |
|-------|--|---|
| 取組の検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・「世界のウチナーンチュの日」認知度について県民を対象とした調査を行ったところ、事業実施前の36%から実施後43%へと7ポイント上昇が確認された。 ・市町村や海外県人会に対し、「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取組みの実施を呼びかけたところ、10市町村、13の県人会が独自に取組みを実施したが、未実施の市町村及び県人会等がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業効果が順調に発現していると考えられることから、平成29年度実施した事業の方向性を維持しつつ、自主的な取組みを行う団体数の増加や「世界のウチナーンチュの日」の認知度向上を推進していくにあたり、県内の国際交流団体等のさらなる実施主体の開拓や効果的な広報のターゲットを検討する。 |

今後の取り組み方針

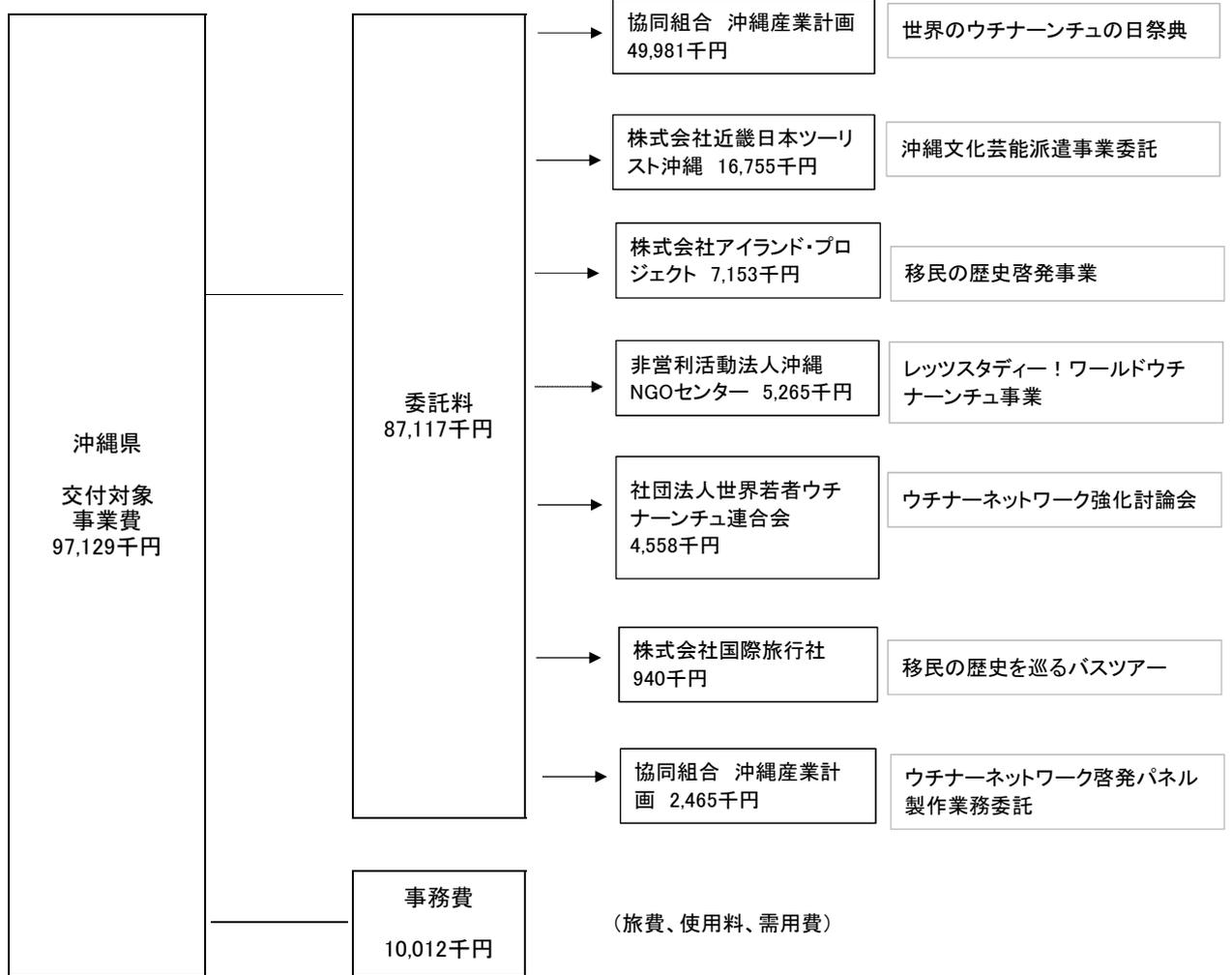
「世界のウチナーンチュの日」のさらなる認知度向上を図るため、以下の取り組みを行う。

- ・取組未実施の市町村や海外県人会等の取組を促進するとともに、県が実施する他の交流事業と連携し、国際交流に関心を寄せる様々な個人・団体に「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取組みの実施を働きかける。
- ・取組みを行う団体に対し、ポスター等の広報ツールや資料の提供を通して支援を行う。
- ・構築したWEBサイトのコンテンツの充実を図り、Facebook等のSNSでの反応を参照しながら、紙媒体やラジオ等の様々なメディアを活用して最も効果的な広報を展開する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

| 総事業費 | 交付対象事業費 | うち交付金充当額 | うち県負担金 | うち市町村負担金 | その他 | 交付対象外経費 |
|--------|---------|----------|--------|----------|-----|---------|
| 97,129 | 97,129 | 77,703 | 19,426 | 0 | 0 | 0 |



| 資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|--------------------------------------|----|--------------------------------|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | ○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | |
| | ○ | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |